

# 静岡産業大学・中期計画＜2020年度～2024年度＞(2024/12/19ver)／アクションプランシート（経営学部）

経営学部	基本方針	<p>1. 高等教育機関としての役割を認識し、教育・研究・社会貢献に努める。教育面においては、学生一人ひとりを社会の責任ある担い手として育てていく。すなわち高い専門性と幅広い教養を身につけ、創造性・独創性・倫理観・自ら成長する力を持つ人材として育成する。研究面では真理の地道な探求から新たな知見の創造に努め、成果を社会に公表する。これら教育と研究によって社会に貢献するとともに、その過程において地域社会との関わりを強く持ち社会貢献に努める。</p> <p>2. こうした活動を積み重ねることにより、経営学部の地域社会における存在価値の増大、地域社会の公器としての持続的発展を図るものである。</p>				
	最重要事項	2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
	1. 「経営学部教育目標」「3ポリシー」の実践	新経営学部の「学部教育目標」と「3ポリシー」の策定を終えたので、この策定結果に基づき、カリキュラム（科目、科目群、卒業要件など）の策定を進める。	学生が体系的に学ぶことができるよう科目・科目群を整理し2025年度経営学部の新カリキュラムを策定した。		◎学部長（佐野） ●教務委員長（永田） ●副学部長（山田） △教務課（佐野温・中村）	
	2. 学生一人ひとりにとっての、卒業までの有効な学修の支援	教務システム内の学生データを統合して「入学時の入学試験データ」「1年次～4年次までの成績データ」「PROGOデータ」「面談データ」「就活支援状況データ」「内定情報」などを閲覧できるように拡充を進めていく。 テキストデータだけでなく、写真、映像などもアップできるように準備する。（海外研修、学外研修などの様子や、作成した作品データを分かりやすく伝えられるように） 父母等が情報を閲覧するだけでなく、書込みや書類の提出ができるように準備を進める。	学生ポータルサイトとドライブで管理されているため、今後は学生ポータルサイトで一元管理するよう進めていく。しかし、そのためには現段階で運用している学生ポータルサイトのシステムでは限界があるため、業者を変更し、データを移行する必要がある。学生の作品データをアーカイブとして管理できるよう調整していく。学生支援課、保健センター、カウンセリングルーム及びアドバイザー教員等が連携して学生の相談指導を行う。		◎学部長（佐野） ●教務委員長（永田） ●学生委員長（高橋・谷口昭） △教務課（佐野温・中村） △学生支援課（増田・萩原）	
	3. 教育の質保証の向上	入学時の入試データ、PROG、その他外部試験の結果と本学の成績、就活データを一括して比較できるように準備を進める。	データが未だ一元管理されていない。入試データはキャリア支援課、PROGは業者、成績は教務課が管理している。システム上で管理しようとせず、クラウド上で一元管理の方が良いかと考える。		◎学部長（佐野） ●教務委員長（永田） △教務課（佐野温・中村）	
	4. 課外活動の促進 ・学生生活全般を教育と捉え、部活動、サークル活動、ボランティア活動等課外活動を活発化させ、学生の主体性、積極性、規範性、思考力、自信の全般的向上を図る。	課外活動の充実に向けて、前年度の活動実績をテキストだけでなく、写真、映像でも閲覧できるように整備する。 学園祭の準備状況を逐次閲覧できるようにし、SNS等も活用して在学生や高校生に向けて発信し、関心を高める。 部活動の状況を在学生にも見やすくし閲覧できるようにし、映像等を活用して楽しい学園生活を伝えていく。	対面式の学園祭が復活して2回目となり、上級生と下級生の連携強化を図った。 高校ダンス部を招いたイベントを行い、地域の高校生にPRできた。		◎学部長（佐野） ●学生委員長（高橋・谷口昭） △学生支援課（増田・萩原）	

	最重要事項	2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
	5. 就職実績の維持	P L Cの活動状況、公務員塾、就職塾、会計塾などの紹介ページを拡充していく。	<p>大学ウェブサイトのキャリア・就職のページから就職状況、キャリアサポート体制、教員採用試験対策、公務員塾、資格取得支援、社会で活躍する卒業生の紹介を行っている。2023年度の就職状況が確定した、5月から7月にかけて進路実績（就職率）を更新するとともに、キャリア支援体制を今年度に合わせた内容に変更した。その他、6月3日（月）2限のキャリアデザイン講座IIで実施した社会人講話の様子を掲載し、本学のキャリア支援の取組みを学内、学外へ発信した。</p> <p>就職実績については、就職内定率が64.0%（日本人67.5%）となっており、前年同時期の53.0%（日本人56.4%）に比べて進捗が良くなっている。キャンパス別では磐田C 61.3%（日本人62.5%）※前年同時期40.7%（日本人41.3%）、藤枝C 66.0%（日本人71.6%）※前年同時期67.5%（日本人76.9%）となっている。磐田Cで新たに実施した個別調査の成果により全体の進捗は良くなったが、藤枝Cでは7月以降に進捗が鈍化しはじめたため、数値が前年を割った。県内他大学での進捗は7割超のため、本学の進捗はやや遅れ気味と言える。今後、学生への教員と連携した後押し、学生への個別フォローを実施することで、就職内定率100%の達成を目指す。内定先には関しては前年と同じように、内定を得ていない企業（例. 静岡銀行、鈴与）が加わっている。</p>		<p>◎学部長（佐野）</p> <p>●就職委員長（宮田）</p> <p>△キャリア支援課（日高・斉藤）</p>	

経営学部	<p>6. 入学者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育内容、就職実績、入試広報など、教職員一丸となった全学体制で入学者募集力を向上させ、大学・学部の活性化及び経営の安定を実現する。</li> <li>・経営学部定員350名以上の入学者の確保実現。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーリーエントリー入試の効果的実施のために広報にて周知→オープンキャンパス参加→<b>面談実施+フォロー</b>→<b>課題レポート提出フォロー</b>→出願許可証発行→出願に向けての効果的な接触（SNSの活用）→出願→合格後のフォロー、の流れを確実に実施する。</li> <li>・探究活用入試の効果的実施のために、広報にて周知（<b>プレゼン【専願】</b>、<b>ミニレポート【併願】</b>）を周知）+<b>探究出張講座</b>の拡充→夏の探究プレゼン講座（<b>期間短縮の周知</b>）の拡充→<b>オープンキャンパスでの探究ミニレポート対策窓口設置</b>→出願に向けての効果的な接触（SNSの活用）→試験後のフォロー の流れを確実に実施する。</li> <li>・総合型選抜【<b>オープンキャンパス参加型</b>】の効果的実施のために 広報にて周知→<b>オープンキャンパス参加+オープンキャンパスでのオープンキャンパス参加シート兼志望理由書記入対策窓口設置</b>→出願に向けての効果的な接触（SNSの活用）→試験後のフォロー、の流れを確実に実施する。</li> <li>並行して<b>Webオープンキャンパス</b>についてを広報にて周知（<b>Web体験授業映像の拡充+Webサイトの見直し</b>（zoom等での<b>オープンキャンパス参加シート兼志望理由書記入対策相談窓口設置</b>）を実施する。</li> <li>・同様に【<b>諸活動評価型</b>】の効果的実施のために 広報にて周知→オープンキャンパスでの<b>諸活動実績シート兼志望理由書記入対策窓口設置</b>→出願に向けての効果的な接触（SNSの活用）→試験後のフォローの流れを確実に実施する。</li> <li>・1, 2年生に向けた探究活動サポート（<b>未来ラボ等</b>）の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーリーエントリー入試についてはweb等によって広報を行ったが、さらに周知の余地がある。実施面に関しては、当日受付等若干の混乱が見られたので、次年度以降に検討の必要がある。</li> <li>・探究活用入試については専願入試であるプレゼン型と、併願入試のミニレポート型に分けたが、十分に周知できなかった点がある。後期より次年度に向けた検討が必要である。</li> <li>・保有リストへのDM等による本学への接触者の強化。入学者の確保実現に向けて大学の認知度向上及びオープンキャンパスへの集客、Webオープンキャンパスの周知を行い、出願へ繋げる。</li> </ul>		<p>◎学部長（佐野）</p> <p>●副学部長（山田）</p> <p>●入試課（鈴木）</p> <p>△入試課（吉川）</p> <p>△広報メディア課（岩崎）</p>	
	<p>7. 離学者の防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>1年生 基礎ゼミのグループ</b>ごとに<b>学園祭、オープンキャンパスへの参加</b>（模擬店やゲーム大会運営、基礎ゼミ活動の展示等）の流れを誘導する</li> <li>・<b>2年生 専門演習や海外研修の履修者グループ</b>ごとに<b>学園祭、オープンキャンパスへの参加</b>（活動内容や研修内容の展示等）の流れを誘導する</li> <li>・<b>3年生 専門ゼミナールのグループ</b>ごとに<b>学園祭、オープンキャンパスへの参加</b>（模擬店やイベント、活動内容の展示等）の流れを誘導する</li> <li>・父母等の連携強化、ポータルサイトの活用</li> <li>・<b>長期履修学生制度</b>の周知と効果的活用</li> <li>・<b>1, 2年生向けイベントの実施</b>（<b>アウトドア派向け</b> スポーツ大会、BBQ等。<b>インドア派向け</b> ゲーム大会、映画鑑賞会、音楽鑑賞会、コンサート等）+<b>国際交流イベント</b></li> </ul>	<p>学園祭、オープンキャンパスへの参加を促す仕組みが未だ整備されていない。学業や生活の悩みについて、カウンセリングルームの積極的な利用を促している。</p> <p>父母等にも、学生の成績及び出席管理システムの状況を共有するようにした。</p>		<p>◎学部長（佐野）</p> <p>●学生委員長（高橋・谷口）</p> <p>●教務委員長（永田）</p> <p>●就職委員長（宮田）</p> <p>△学生支援課（増田・萩原）</p> <p>△教務課（佐野温・中村）</p> <p>△キャリア支援課（日高・斉藤）</p>	

項目別アクションプラン				
2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
<教育>				
1. 引き続き、ポータルサイトで入口（入試データ）、在学中（学修データ（GPAを含む）、資格取得データなど）、出口（就職先データ）を一元管理を進める。	キャリア支援課と教務課で管理されているデータが存在する。それを一元管理するのは難しいため、クラウド上で共有していくよう整備している。		◎学部長（佐野） ●教務委員長（永田） ●学生委員長（高橋・谷口昭） ●就職委員長（宮田）	
2. 地域連携、アクティブラーニングの活動について <b>写真、映像でも紹介</b> できるように拡充しながら探究活動の充実につなげる。	写真、映像、パネル、Webを活用し学外へも積極的に報告できる仕組みを検討していきたい。		△教務課（佐野温・中村） △学生支援課（増田・萩原） △キャリア支援課（日高・斉藤） △情報システム課（野依）	
3. BiViキャンを地域の「探究活動の拠点」と位置づけ、加えて活動の様子を <b>常設パネル</b> 等で紹介するとともに <b>Web特設ページ</b> を作成し紹介する。				
4. <b>海外研修の充実</b> 前年度研修の <b>報告会</b> （在学生向け：参加者増に向けて）、 <b>海外研修紹介Webサイト</b> の作成（写真＋動画など）を実施する。	ワイカト大学を視察し海外留学紹介スライドを作成した。学生へ積極的に紹介していきたい。			
5. <b>インターンシップの拡充</b> 代表的な <b>インターンシップ先</b> やインターンシップ <b>活動内容を紹介</b> したWebサイトの作成（学内外に向けた実績紹介）	オープンカンパニーが主流な中で、受入企業および履修学生も低迷した。一方、し、キャリア支援課の協力の下、受入企業とは教育実践プログラムの検討会を重ね、就業内容の質の保証を行った（2024年3月15日、4月19日、5月24日）。また、実習内容を学生に可視化するため、受入企業の協力の下、ポスター、プロジェクトシート（内容を示した書類）の他に、今年度は3分程度の動画を作成した。また、企業との教育実践プログラムの検討会の紹介を文部科学教育通信（ジアーズ社）に2025年2月以降、2回にわたり寄稿予定。			
6. <b>探究入試の入学者の学びのフォロー</b> と入学後の <b>学習活動追跡</b> 取材とそのフィードバック利用	探究入試の入学者を基礎ゼミの特待生クラスに配置し、アドバイザー教員の高大連携や地域連携活動に帯同させる等の経験を通じて現実課題に向き合うことで、探究スキルを深めることを推奨している。当該学生の入学後の学習活動追跡については、アドバイザー教員のポートフォリオへ入力の徹底を引き続き依頼していきたい。			

経営学部	<p>7. 会計塾、公務員塾、PLC等の効果的運用 それぞれの塾の学内外への周知と塾生の拡充（塾のWebサイトの作成（塾生の紹介や、資格試験、資格取得状況、塾の活動状況、在籍塾生数等）</p> <p>8. 「選抜クラス」「保育士養成課程」の効果的運用 「選抜クラス」学生の1、2年生合同宿泊研修等の検討（びく石キャンプサイトバンガロー等利用）</p>	<p>公務員塾は上期は26名が受講（両キャンパス、経営学部）。受講中の4年生の中から行政1名（牧之原市）、自衛隊（一般幹部候補生2名、一般曹候補生1名）、警察（静岡県警察1名）が合格。</p> <p>就職塾の上期の経営学部受講者（5回以上）は、藤枝2名、磐田2名。ビジネス塾の上期の経営学部受講者（5回以上）は、藤枝2名、磐田0名。受講者が少なく、加えて、大学の方針とも必ずしも一致せず、全面見直しを含めた再検討を今後行う。</p> <p>会計塾、教員試験突破塾は教務課が運営担当で本委員会の管轄外であるが、参考値として掲載（次回以降は教務課等に対応ください）。</p> <p>会計塾の受講者は経営学部20名（藤枝15名、磐田5名）。経営学部の受講者の中から日商簿記1級合格者が出ている。</p> <p>教員試験突破塾は経営学部は対象外。</p> <p>「選抜クラス」の学びの強化を今後検討していく。</p> <p>「保育士養成課程」は23名が履修中。星槎大学幼免取得をめざす学生もおり保育の魅力をさらに広げたい。実習に向けた指導・支援は、個々の学生の状態に応じてきめ細やかに行うことができている。</p>			
	<p>&lt;研究&gt;</p> <p>1. 紀要、学内研修会の充実</p> <p>2. 科研費等、外部資金獲得の充実</p>	<p>紀要「環境と経営」第30巻第1号は原著論6本を含む全8本が掲載された。多数の投稿があり、質・量ともに充実しつつある。この傾向が次号も続くよう、センターをあげて努力したい。</p> <p>科研費等の外部資金獲得のための申請を促した。今後は申請書作成におけるポイントを共有できるような講習会を検討していきたい。</p>		<p>◎学部長（佐野） ●経営研究センター長（熊王） ●教務委員長（永田） △教務課（佐野温・中村）</p>	

	2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	<p>&lt;地域貢献&gt;</p> <p>1. 地元市町、商工会議所、地元企業との連携、学生参加プロジェクトの充実</p> <p><b>活動状況の効果的な紹介</b> (BiViや学内でのパネル展示等)</p> <p>2. 出張講座・講演、受託研究など、地域貢献の可能性の検討及び充実</p> <p>出張講座・講演の実績、受託研究の実績などをWebサイトなどで効果的に伝えるとともに申込みサイトなどを拡充し外部から依頼しやすくする。</p>	<p>蒼樹祭(磐田C学園祭)では4年ぶりに地域の方のフリーマーケットが開催された。</p> <p>鳳翔祭(藤枝C学園祭)では地元高校のダンス部によるパフォーマンスを開催した。</p>		<p>◎学部長(佐野)</p> <p>●学生委員長(高橋・谷口昭)</p> <p>●教務委員長(永田)</p> <p>△学生支援課(増田・萩原)</p> <p>△教務課(佐野温・中村)</p>	
	<p>&lt;入試&gt;</p> <p>1. ・<b>アーリーエントリー入試</b>の効果的な実施 4月、5月における集中的な周知活動 オープンキャンパスでの手厚い指導とフォロー (面談指導、課題レポート指導) 出願につなげる工夫</p> <p>・<b>探究活用入試</b>の効果的な実施 探究学習の支援充実 プレゼン講座(本学での夏講座と出張型プレゼン講座)の充実 ミニレポートの指導 出願につなげる工夫(探究発表会の実施等)</p> <p>・<b>総合選抜型</b>(オープンキャンパス参加型) オープンキャンパス参加シート兼志望理由書記入対策窓口設置 <b>Webオープンキャンパスの効果的活用</b> <b>Webオープンキャンパス体験授業映像の拡充</b> <b>Webオープンキャンパス紹介サイトの見直し</b></p> <p>・<b>総合選抜型</b>(諸活動評価型) 諸活動実績シート兼志望理由書記入対策窓口設置</p>	<p>・アーリーエントリー入試 6月・7月および8月のオープンキャンパスにおいてアーリーエントリー入試を実施した。事前の周知は必ずしも十分であったとはいえず、また、実施段階で準備段階では予想できなかった事態が生じたが、回を経るごとに実施が円滑化され、結果的に予想を上回る志願者を得ることができた。入試課による応募者へのフォローアップもあり、応募者の大多数が出願見込みである。</p> <p>・探究活用入試 探究プレゼン入試を探究活用入試と変更し、プレゼン型とミニレポート型に分割して実施することとした。</p> <p>・総合型選抜 webオープンキャンパスについては、受験生だけでなく低学年の高校生にも向けたより一層の周知が必要である。</p>		<p>◎学部長(佐野)</p> <p>●副学部長(山田)</p> <p>△入試課(鈴木)</p>	
	<p>&lt;就職&gt;</p> <p>1. 「<b>就職に強い静産大</b>」の周知 実績は揃っているのをそれを<b>効果的に周知</b>する</p> <p>2. <b>資格取得サポートセンター</b>の周知 各種、塾との連携と実績の周知の徹底</p> <p>3. 卒業生との連携強化 <b>30周年</b>のさまざまな行事、発行媒体、イベントを効果的に活用。<b>産大愛</b>への接続。</p>	<p>効果的な周知方法について検討中。</p> <p>資格講座、会計塾などの案内を積極的に行った。</p> <p>開学30周年記念事業においては、同窓会から多大な資金援助を受けるとともに、海外同窓会等の記念事業に対して同窓会理事等の参画を予定している。また、作成中の記念誌においては、選定した卒業生に依頼し、記念の写真とともにメッセージを寄せもらうこととしている。</p>		<p>◎学部長(佐野)</p> <p>●教務委員長(永田)</p> <p>●学生委員長(高橋・谷口昭)</p> <p>●就職委員長(宮田)</p> <p>△教務課(佐野温・中村)</p> <p>△学生支援課(増田・萩原)</p> <p>△キャリア支援課(日高・斉藤)</p>	

2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
<p>&lt;広報&gt;</p> <p>1. 経営学部の磐田キャンパス・藤枝キャンパスの特色を明確化            キャンパスごとの<b>コースの内容を特色化</b>            磐田市、藤枝市との連携を特色に昇華する</p> <p>2. 経営学部の「実学教育」「ICT」「データサイエンス」「デザイン」「心理」「スポーツ」「就職」「地域志向」等の特徴を強調</p>	<p>・キャンパスごとのコース内容の特色化は必ずしも達成できていない。25年度のカリキュラム編成にて特色を出してゆく必要がある。</p> <p>教員の大学祭への積極的な参加を促している。</p>		<p>◎学部長（佐野）            ●学生委員長（高橋・谷口昭）            ●副学部長（山田）            △学生支援課（増田・萩原）            △広報・メディア課（岩崎）</p>	
<p>&lt;大学運営&gt;</p> <p>2 キャンパスを効果的なDX化によって、効率的に接続し、学生、教職員のキャンパス間の距離感を縮めていく。</p> <p>会議、イベント等は対面式を重視し、キャンパス間は<b>遠隔会議室システム</b>や、<b>小会議室間はZoom</b>で接続等を活用する。</p>	<p>教授会の磐田C「第1会議室」＋「藤枝C「第3会議室」の2元中継対面開催の徹底を進めた。教務委員会、学生委員会などの主要委員会の「遠隔会議システム」利用による対面重視会議の実施を進めている。</p>		<p>◎●学部長（佐野）</p>	



将来構想						
項目	2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当	次年度以降に向けての修正点	
経営学部	1. 大学のブランド形成	大学の <b>ブランド形成</b> 「 <b>就職に強い静産大</b> 」 「 <b>実学（フィールドワーク）の静産大</b> 」 「 <b>探究の学びの静産大</b> 」 「 <b>SDGsの静産大</b> 」 「 <b>数理・データサイエンス・AI教育の静産大</b> 」 +	「就職に強い静産大」 充実した就職実績を高校生・保護者・高校の先生・企業の採用者に伝えるコンテンツの整備を始めている。 「実学（フィールドワーク）の静産大」 充実したPBL、ゼミの学びをタイムリーに紹介する発信の整備を始めている。 「探究の学びの静産大」 地域の高校との探究コンソーシアムの活動を紹介するコンテンツの整備を進めている。 「SDGsの静産大」 SDGsの静産大を代表するコンテンツの収集段階。 「数理データサイエンス・AI教育の静産大」 文科省の認定ロゴ「MDASH」の積極的活用とWebでの紹介準備を進めている。		◎●学部長（佐野） △教務課（佐野温・中村） △キャリア支援課（日高・斉藤） △広報・メディア課（岩崎）	
	2. キャンパスの特性を見極め、強みを伸ばす教育	<b>キャンパスの特性を見極め、強みを伸ばす教育</b> キャンパスが立地する <b>地域（磐田市・藤枝市）</b> との連携を踏まえた <b>コース設定と地域連携科目の設置と活用</b>	地域における課題解決への取り組みを生かし、下記の8つのコースを設定した。【経営コース】【会計コース】【地域ビジネスコース】【AI データサイエンスコース】【観光・文化コース】【スポーツビジネスコース】【ビジネス心理コース】【ものづくり感性コース】		◎学部長（佐野） ●教務委員長（永田） △教務課（佐野温・中村）	
	3. 2キャンパスにわたる学部の教育及び運営の効率化とその成果の向上	<b>2キャンパスにわたる学部の教育及び運営の効率化とその成果の向上</b> 教授会、諸委員会の <b>対面（遠隔会議システム）の利用</b> による円滑な運用への移行 <b>対面授業の充実とデジタルコンテンツの活用</b> <b>数理・データサイエンス・AI教育認定プログラムの認定</b> に並行してPC必携化による「 <b>データに強い静産大</b> 」の実現 <b>学生データの統合</b> と画像、映像データの活用による <b>学生の学びの共有化と視覚化</b>	教授会はTV会議システムを併用して対面実施されている。委員会は、対面実施が3、対面とTV会議システムの併用が1。キャンパス間を接続する委員会については、資料の画面共有の都合もあるため、Zoom利用が多くなっている。 授業全体の98%が対面授業で実施されている。デジタルコンテンツについては、授業担当教員の判断で活用されている。コンテンツ活用に関する教員間での情報共有については未整備。 8月に数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の認定を受けた。 現時点では未整備。		◎学部長（佐野） ●ICT委員長（久保田） △教務課（佐野温・中村） △情報システム課（野依）	本項目の内容は、教務委員会に関わるものが含まれているため、担当者に教務委員長を加える。